

## 小野理事長からのメッセージ

### 腎移植内科研究会の重要性について

#### 我が国の移植内科医育成における腎移植内科研究会の重要性

現在日本国内で通院中の腎移植後の患者さんは 25000 人にのぼるといわれています。これらの患者さんの移植後管理は主に移植外科医が行ってきました。しかし移植後における拒絶反応への治療、免疫抑制薬の調整、移植後特有の感染症対策、そして移植後慢性期に問題となる高血圧や脂質異常症、耐糖能障害、癌、腎機能低下等の長期管理はまさに内科的なものと言っても過言ではありません。腎移植においては生体移植前のレシピエント・ドナーの適応評価、献腎移植前の腎臓の評価、移植後のレシピエント・ドナーのフォローアップで腎移植内科医の活躍が期待されます。特に生体ドナーの透析導入例も報告されており、ドナーCKD 診療及びその追跡調査も大切です。

現在の日本移植学会認定医である内科医は僅か 100 名にも満たず、今後増加が予想される移植患者のためには認定内科医 250 名に加え、毎年 25 名の増員が必要と見込まれています。働き方改革の内科外科間のタスクシェアにおいても移植内科医の存在は重要と考えます。

日本移植学会では、2020 年に新たに transplant physician 委員会を設置いたしました。本委員会では、全臓器移植の患者や生体ドナーを移植前から移植後長期まで管理し、移植に関わる学術を振興する内科医の育成、ひいては臓器不全に対する医療の質向上を目標としております。移植医療発展の歴史において腎移植が常に移植医療をリードしてきました。我が国における移植内科医育成においても、腎移植内科研究会のリーダーシップに大いに期待するところであります。腎移植内科研究会のますますの発展を祈念いたします。

一般社団法人 日本移植学会

Transplant Physician 委員会 委員長 酒井 謙

日本移植学会 理事長 小野 稔